

教育委員会の一層の機能強化・活性化に向けて

地域の
特色ある
活動

埼玉県戸田市教育委員会

戸田市は埼玉県の南東部に位置し、東京のベッドタウンとして、特に若い世帯を中心に人口が増加しており、子育て、教育には高い関心を示し、注目されています。

平成27年度の新教育委員会制度の移行と同時に中学校校長を退職し、教育長に就任しました。その当手を振り返ると、まず着手したこととして、教育委員会自体の活性化があります。何よりも重要なことは児童・生徒に直接教育を施す学校の教育改革ですが、学校が安心して改革を進めるためには、教育委員会とその事務局が学校から頼られる存在である必要があります。

そこで、それまでは、ほぼ報告事項と議案の追認による短時間の内容であった定例会議にメスを入れ、教育委員自らの提案によるテーマの設定（教育委員提案制度）を毎月の会議に取り入れました。さらに、教育委員が、現在の教育現場を知るために学校訪問や研究発表会、教員研修等に積極的に参加する環境



戸田市の教育委員会会議を他自治体の教育委員が視察する様子

づくりを行いました。調査したわけではありませんが、本市の教育委員は日本一学校現場に足を運んでいると自負しています。

言うまでもありませんが、教育委員会は、所謂レイマンコントロール（素人統制）により、教育の専門家である事務局を指揮監督する機関です。例えるならば、教育委員は、事務局をエンジンとする教育行政という車のハ

ンドル、アクセル、ブレーキを操作する運転手であり、助手席のナビゲーターでもあります。レイマン（素人）とは言われますが、単なる素人であっては困ります。教育行政を運転する技術を身に付ける必要があります。先述した教育委員会制度や数多い学校訪問は、巧みに運転する技術を磨くために不可欠と考えています。令和5年7月19日にまとめられた「令和の日本型学校教育」を推進する地方教育行政の充実に向けた調査研究協力者会議の報告書（15回にも及ぶ熱い議論を重ねてまとめたもので、全国の教育委員会等は必見の報告書です）の中にも掲載されていますが、【教育委員会活性化の10の心構え】は、この考えをまとめたものです。就任以来「学び続ける教育委員会」「開かれた教育委員会運営と定例会議の充実と活性化」を進めています。

【教育委員会活性化の10の心構え】

- ・議事や報告の追認に終始しない
- ・「教育委員は教育委員会事務局の上司である」という意識を事務局が持つ
- ・事務局が知っていて、教育委員が知らないことがないように、壁をなくす努力をする
- ・事務局で結論が出ていないことでも事前に教育委員に報告し、共に知恵を出し合う
- ・教育委員が主体性を発揮できるよう、発言しやすい環境づくりをする
- ・教育委員会会議では、必ず教育委員提案をいただく
- ・事務局は、できるだけわかりやすく、丁寧な説明を心がける

- ・国や県の通知や最新の教育情報を随時教育委員に提供する
 - ・教育委員向けの研修を実施する
 - ・会議資料は5日前までに委員の手元に届ける
- その他に、市内全校長が教育委員に対し、学校経営方針等を説明する機会として、「校長プレゼン」も定例会議内で校長が輪番で実施しています。昨年度は「学校の特色」を、今年



校長プレゼンの様子

度は「中学校区の小中一貫教育」をテーマに校長がプレゼンし、その後意見交換をしています。

これらのことに積極的に取り組むことは、まさにレイマンコントロールの具体と考えます。先述した教育委員提案制度では、事務局は、取り組んでいる様々な施策や情報を教育委員に丁寧かつわかりやすく説明し、教員委員の意見をもとにブラッシュアップしていきます。教育委員は、事務局が取り組む施策等が、市民の期待に答えているか、市民に情報等が正しく伝わっているかなど、厳しくチェックをしていきます。

事務局職員からは、教育委員会会議の対応は、議会对応並みに大変だという声が聞こえてきます。この声を聞いて、本来あるべき教育委員会の姿になってきていると確信しています。

学校の教育改革については、就任以来継続して次の4つのコンセプトを掲げています。

1. AIでの代替は難しい力などの育成
2. 産官学と連携した知のリソースの活用
3. 「経験と勘と気合い（3K）」から「客観的な根拠」への船出
4. 授業や生徒指導等を科学する

特に、新しい分野に先陣を切って挑戦する「ファーストペンギン」になれば、最先端かつ質の高い教育を最小限のコストで提供できると考え、産官学と連携した知のリソースを活用し、「戸田市 SEEP プロジェクト」を立ち上げました。今では100を超える企業等と

多様な連携をしています。本市の産官学民との連携態様は、①自律的な教育意思の存在、② EIPP (Evidence Informed Policy and Practice) による効果検証ができる基盤、③「Class lab」の発想、④積極的な情報発信の4つがあります。

※ SEEP プロジェクトとは、S：Subject（教科教育）E：EBPM（Evidence-Based Policy Making）E：Edtech（Education × Technology）P：PBL（Project-Based Learning）の4文字のアクロニムであり、「浸透する」の意味⇒教育業界用語の「薫習」。学校とは「児童生徒の出ていく社会を知ろうとしないのは極めて不誠実である」「学校という学びの場を子供たちが未来を感じられる空間に」そして、「リスクを恐れて凡庸な90点を取るより、60点でもいいから夢のある挑戦をしていこう」と繰り返し発信し考えを共有しています。教育委員会とは、「啐啄同時」であり「学校に伴走し、積極的な自走を支援し、逸走や暴走を軌道修正する」ところでなければならないと考えています。戸田市教育委員会の具体的な取組は、教育委員会のfacebookや「戸田市教育委員会公式note」(https://note.com/toda_boe)を御参照ください。

教育改革に終わりはありません。いまは、創造性、コミュニケーション能力、情報リテラシー、非認知能力等が必要な時代です。さらに最近は、生成AIの普及にともない、それにどのように対応すべきか考えていく必要もでてきました。この先どのような能力が必要になるか、常に社会の変化に敏感であり先を読み「学び続ける教育委員会」でありたいと思っています。



教育長
戸ヶ崎 勤